

杉野辰雄* 三池山のイワヘゴモドキ

T. Sugino : *Dryopteris mayebarae* Tagawa from Mt. Miike, Fukuoka Prefecture.

1. ま え が き

イワヘゴモドキ *D. Mayebarae* Tagawa の自生地は極めて少なく、宮沢 (1934)、田川 (1938)、倉田 (1956, '57)、滝 (1951)、糟谷 (1956)、初島 (1956, '57)、佐竹 (1957) など諸氏の採集標本により、千葉県清澄山、熊本県入吉市、宮崎県オオタキ、青井岳、霧島大幡山、鹿児島県薩摩布毛、大隅高隈山、紫尾山などが明にされているに過ぎない。

最近シダ類の研究が盛んになり、それにしげきされて筆者も大牟田地方におけるシダ類の分布調査を行つているが、昨年暮三池山でイワヘゴモドキを1株見出したので報告する。

2. 生育地の地形

三池山は、大牟田市の東東南部に位置し、高さ388m、周約10km、花崗岩の山で、殆んど頂上まで広葉樹および針葉樹でおおわれているが、頂上の南部は草原となつている。その尾根の中央に近い東側の斜面、高度350mの地点に、植林による杉林(杉は径30cm、高さ約10m)の△地区がある。

こゝがイワヘゴモドキの自生地である。1月の調査であるが湿度は大で、下ばえは極めて少なく、モウソウチク、マダケ、イズセンリヨウ、フユイチゴ、アオキ、ハナミヨウガ、ヒサカキなどが点々と自生していた。

3. 生育地におけるシダ類の分布状態

見出地は、僅か1000平方mに過ぎないが、そこに分布するシダの種類は多く、その中にオクマワラビ、ツクシイワヘゴの自生もみられ、その2種の混生地点からイワヘゴモドキが見出されたのである。

三池山(△)地区内の羊歯植物目録

- ウラボシノコギリシダ *Athyrium sheareri* (Bak.) Ching
 イワガネソウ *Coniogramme japonica* (Thunb.) Diels
 シラガシダ *Ctenitis maximowicziana* (Miq.) Ching
 ヤブソテツ *Cyrtomium fortunei* J. Sm.
 ヤマヤブソテツ *Cyrtomium fortunei* J. Sm. var. *clivicolum* (Makino) Tagawa
 ヒカゲワラビ *Diplazium chinense* (Bak.) C. Chr.
 サイゴクベニシダ *Dryopteris championi* (Benth.) C. Chr.
 ツクシイワヘゴ *D. commixta* Tagawa

* 大牟田市教育研究所

- ベニシダ *D. erythrosora* (Eat.) O. Ktze.
 クマワラビ *D. lacera* (Thunb.) O. Ktze.
 イワヘゴモドキ *D. mayebarae* Tagawa
 トウゴクシダ *D. nipponensis* Koidz.
 オクマワラビ *D. uniformis* (Makino) Makino
 ミゾシダ *Leptogramma mollissima* (Fisch.) Ching
 フモトシダ *Microlepia marginata* (Panzer) C. Chr.
 コバノカナワラビ *Polystichopsis pseudo-aristata* (Tag.) Tagawa
 イノデ *Polystichum polpblepharum* (Röm.) Pr.
 サイゴクイノデ *P. pseudo-makinoi* Tagawa
 イノデモドキ *P. tagawanum* Kurata
 オウバノイノモトソウ *Pteris cretica* L.
 オウバノハチジョウシダ *Pteris inaequalis* Bak. var. *aequata* (Miq.) Tagawa
 オウカグマ *Woodwardia japonica* (L. f.) Sm.

4. 考 察

イワヘゴモドキは、形態学的にはオクマワラビとツクシイワヘゴの中間型を呈する。すなわち 1) 葉柄の鱗片が3種とも黒色に近い。2) 羽片の切込み工谷が2種の中間で、最下端小羽片が独立している。3) ソーラスはオクマワラビは葉の先端より約2/3までついているが、ツクシイワヘゴは全部についており、イワヘゴモドキは、それらの中間までについている。自生はイワヘゴモドキは必ず2種の混生地に自生している。以上のことから倉田氏はイワヘゴモドキは、オクマワラビとツクシイワヘゴとの雑種と考へていられるようである。

筆者の見出地も確かにオクマワラビとツクシイワヘゴの混生地にイワヘゴモドキを採取した。しかし本種は筆者が同地点ですでに昭和の初期頃に採取したところで、それから20年以上も経過した昨年の暮に再度同種を採取したのであるが、それが繁殖も絶滅もせず当時の自生状態を維持していたようである。この地域に対する本種の適応性を一応考慮しなければならないが、自生については長期観察の必要を感じた。

参 考 文 献

- 1) 倉田悟：北陸の植物7, 11—14 (1958) 2) 倉田悟：北陸の植物5, 111—114 (1956) 3) 倉田悟：北陸の植物3, 62—65 (1954)

Summary

A stock of *D. mayebarae* is newly found on the slope of Mt. Miike, Omuta City, Fukuoka Prefecture.

The plant grows under the forest of *Cryptomeria japonica* and is associated with *D. commixta* and *D. uniformis*.